

1. 金融と実体経済に関する参考文献

- ・「平成14年度国民経済計算確報」、内閣府、2004年（<http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/toukei.html#jikei>）
- ・「現代日本経済入門『バランスシート不況』の正しい見方・考え方」、北坂真一、東洋経済新報社、2001年

2. 実体経済と金融の関係

- ・モノの経済：貯蓄投資バランス

$$Y = C + I + G + (X - M)$$

$$S = (Y - T) - C$$

民間国内貯蓄超過	財政赤字	経常収支黒字	
$S - I$	$=$	$(G - T) + (X - M)$	という恒等式

- ・金融面では資金過不足

収入などを使い残した経済主体は「資金余剰」、足りなかった主体は「資金不足」となる

- ・モノの「貯蓄投資バランス」と貨幣面の「資金過不足」は裏腹の関係：SNAの主要な2勘定国際収支表、産業連関表などともに重要な位置づけ。推計方法が異なるため、一致しない。
- ・日本では経済主体間での貯蓄投資の大きなアンバランスが存在：永続可能性が問題になる
民間は大幅な貯蓄超過（近年では法人企業部門） 大幅な財政赤字、大幅な経常黒字
という構図がいつまで続くか？財政赤字抜きには、民間は全体として貯蓄できないが・・・

3. 金融から実体経済への影響

- ・**間接金融中心の日本** ... 銀行が貸すか貸さないかが経済活動にとって大きな分かれ目
バブル崩壊前まで：土地担保あるいは土地を持つ人の保証があれば銀行は容易に貸出
企業などが設備投資等を行いやすい環境 ... 経済成長を高める
バブル崩壊後：「金融検査マニュアル」の導入（1999年、金融機関のリスク管理を重視）や早期
是正措置等による**融資審査**の厳格化 + 事後的な業績フォローの厳格化（自己査定制度）
企業などが設備投資等を行いにくい環境 ... 経済成長を低める
現在では、土地担保や人的保証に頼らない貸出手法の確立が銀行の大きな課題
- ・日本経済にあっては、「直接金融の機能度向上」が今後の大きな課題

4. 実体経済から金融への影響（例）

- ・東西冷戦の終了、アジア諸国の経済発展、中国の市場経済化などに伴って、日本経済の相対的な有利さが低下 土地の収益率の低下 過去の大型プロジェクト等の不良債権化
- ・十分な収益の上まらない流通業者の店舗拡大 過大な負債 返済不能
- ・円高に伴う国内旅行の停滞（海外旅行の割安化） リゾートホテル等の不良債権化

5. クレジット・ビューとマネー・ビュー

- ・金融と実体経済との関係を結ぶものとして、重視する項目が異なる2つの見方
マネー・ビュー：マネーサプライや利率を重視 企業や家計の**資産**を重視
マクロ経済学のIS-LM分析はマネー・ビューの代表例
クレジット・ビュー：銀行の貸出額や信用量を重視 企業や家計の**負債**を重視
- ・クレジット・ビューでは、地価の上昇、下落が経済活動に与えた影響を説明しやすい
地価が**上昇**しているときは、銀行の審査コストを**低下**させる 貸出が伸びやすい
地価が**下落**しているときは、銀行の審査コストを**上昇**させる 貸出が減りやすい
- ・都道府県別のデータでみても、地価の上昇・下落と貸出の増減には強い相関がみられる

6. 金融知識の大切さ

- ・金融に関する各種の知識（金融制度、金融行政や金融政策など）を十分持てば、どの業界でもいざというときの対応を考えやすい：銀行や市場へのアピール、経営再建計画の策定など
- ・日本経済の将来を想定する際にも、重要な手がかりを与えてくれる 以上